

一冊の本

図書館長 糸園辰雄

去る3月の終りに亡くなられた作家の尾崎一雄さんは、芸術院会員とか文化勲章受章者といういかめしい肩書よりも、「暢気眼鏡」などユーモラスな私小説の作者として私どもでさえ、「さん」づけで親しみ深く呼びたい小説家です。その尾崎さんは旧制の中学校時代、志賀直哉の「大津順吉」に衝撃を受け、志賀直哉を生涯の師と仰ぎ作家への道を志したといえます。

大河内一男先生は私の恩師ですが、旧制の第三高等学校の頃、親友の名和統一氏からノートに写した「共産党宣言」を回され、「全く新しいものの考え方や見方を訓えられ」て「目先きが急にひらけた衝撃」を感じたといわれます。文学か哲学かを志して、わざわざ京都の高等学校を選んだ大河内青年が、社会科学に向きを変えた直接のきっかけとなったわけです。

荒畑寒村の自伝によりますと、明治36年10月12日付万朝報の、堺利彦、幸徳伝次郎の白露開戦反対の退社の辞を読み「火花が眼を射たような衝撃を感じ」、幸徳の「社会主義神髓」によって社会主義者としての一生を踏みだした由です。

尾崎さん、大河内先生、荒畑寒村にかぎらず、多くの人々は「一冊の本」との出会いが一生の方向をきめるきっかけとなりました。もちろん、それぞれ一人ひとりの中に備っているもの、蓄積されていたものが、本との出会いでいっきに噴出することになったものかもしれませんが、もし「一冊の本」にめぐりあうことがなかったら、余程ちがっ

た人生を送ったにちがいません。そう考えますと、「一冊の本」と出会うことが、どれだけ大きな意味をもっているかがわかります。「一冊の本」との出会いは、こうして人生の方向をきめるきっかけになるばかりではありません。その人の生涯を精神的により豊かにしてくれ、失意のなかから立ちあがる力をも与えてくれます。青年期のロマン・ロランは、スピノザの閃光によって救いの道にみちびかれたといわれ、三高をやめて田舎に帰った末川博は、「歎異抄」を力に心機一転して復学しています。

私のとるにたらぬ生涯をふりかえてみても、大学1年時ノートに写しとった「日本資本主義分析」によって眼からウロコが落ちた思いがしましたし、社会科学のもつ力に驚嘆し、魅了されてしまいました。経済学の進歩は古典をも相対化して行きましたが、「分析」に接した時の感動は今も鮮烈であります。永く実業にたずさわっていた間も忘れることができず、その感動が励ましになって勉強をつづけてきましたし、不遇の時のもっとも力強い支えでした。

こういったからといって、「一冊の本」に誰もが何の努力なしに出会うわけにはいかないことは、たやすくお判りになるでしょう。図書館は皆さんの前に開かれています。ここに納められている数々の図書のなかに、必ず皆さんにとっての「一冊の本」があると信じます。

商学部教授(商学総論・中小企業論)

特集

新入生と図書館

図書館利用の勧め

特に新入生諸君へ

経済学部助教授 江 副 憲 昭

新入生の諸君は、大学に対してさまざまな期待をもって入学してきたと思う。例えば、教養を深め専門的な知識を身につけたい。人格を修養し国際的な人間になりたい等。しかし当然のことだが、これらの期待は大学に入学すれば自動的にかなえられるものではない。大学は基本的に自由なところであり、高校時代までのような外部からの強制指導は少ない。したがって本人の自主的な努力によって初めて自己の期待は実現されるのである。

大学では、学生諸君の自主的な学習の便宜のために、充実した図書館を設置している。まず図書館の基本的使命は数多くの文献、資料を所蔵し、それを利用に供することである。大学図書館に入ると、まず多くの開架図書が待っている。これが約10万冊。それ以外に書庫の30万冊の蔵書も利用できる。さらに国連の資料、最新の新聞・雑誌も数多くある。問題はこれらの蔵書をどう利用するかである。新入生にとって、はじめは専門科目も少ないので、幅広い教養書を読むべきであろう。学生時代にもっと本を読めばよかったと嘆く先輩の話を聞いたことがあるであろう。若い時代は頭脳が柔軟であり、読書により自己啓発ができ、しかも一生の糧となる。しかし後年になると仕事や雑事に追われて暇がなくなるばかりでなく、頭が固まり感動しにくくなるからである。私の例でいうと、新入生の頃はできるだけ分厚い文学書を選んで読んだ。ドストエフスキー、トルストイ、バルザック、プルースト、ロマン・ロラン、キエルケゴール、中国古典等。受験時代にその名前を丸暗記した文学書を、かなり読めたと思う。20年後の今、こうした本を読むゆとりは全くない。だが今で

も当時の感動を思い出すことはできる。できるだけ数多くの本を読むには、図書館からの借出しを利用するのが便利である。

しかし、このような教養書ばかりでは大学生として片手落ちである。自己の選んだ専門の勉強もしなければならぬ。大学時代の後半になると演習が始まり、専門科目も増える。教授の要求する専門書の学習も厳しくなるであろう。この時も図書館にある参考書は必須である。現在の学問の発達からみて、できるかぎり幅広い文献を研究するのが当然であり、それは図書館の利用以外には実現できないだろう。

図書館の第2の役割として、勉強する場所を提供することが挙げられる。講義の予習・復習、レポート作成あるいは試験勉強をするとき、図書館は邪魔の入らぬよい勉強の機会を与えてくれる。自分の部屋では誘惑が多いし、落ち着かないことがある。また図書館は夜の9時まで利用できるから腰をすえて勉強できる。これ以外にも図書館利用にはいろいろなメリットがある。まず、現在の大部分の本は非常に高価であるから、それを買わずに読むことは経済的に大いに助かるはずである。また最新の新聞・雑誌もあるので、定期購読の費用もはぶけるだろう。自分で買った本はいつでも読めると思うから、積ん多くの危険性があるが、図書館から借りた本だと返却の期限があるので必ず読むであろう。

大学生活4年間は短い。しかし、その間に、大学の「自由」に迷ったり、焦ったりすることもあると思う。そのような時、是非図書館を訪ねてみることをお勧めする。図書館は学生生活にとって「宝の山」であるからである。

(近代経済学)

特集

新入生と図書館

商学部商学科4年 辻 康 昭

文学部英文学科 田 中 みはる

春爛漫。今春も西南のキャンパスには新しい顔の新入生がお目見えし、又各クラブの新入生争奪戦にも一段と熱がこもる今日この頃。この時期はキャンパスが一番賑やかで、華やいだ雰囲気になります。しかし、ややもするとこの雰囲気におし流されてしまって、自分の目標を見失いがちになるものです。そこで今のうちから、きちんとした計画を立てて、幸先の良いスタートを切るようにして下さい。ところで新入生の皆さん、講義のあいま、休講の時等何をしていますか？ こんな時図書館へ行って、違った雰囲気を味わってみてはどうでしょう。西南の図書館は試験期間中は満員御礼で、席を捜すのに本当に苦労しますが、それ以外の時は比較的空いていて、誰に惑わされる事もなく落ち着いて自分の時間が持てます。又休みの時でも頑張って勉強している人はいるもので、その目的は、資格試験、公務員、教員試験等様々ですが、このような姿を見ると、大いに刺激されて励みになるものです。

新入生の皆さんも、日頃から図書館通いの習慣を身につけてはどうでしょうか。かくいう私も一、二年の頃は、試験期間中以外はあまり図書館を利用せず、三年になってゼミの関係上、又受験勉強等の為、頻繁に利用するようになったのですが、それだけに、新入生の皆さんには早くからこの特典を利用してもらいたいと思います。

お隣の韓国の大学では今「脱落恐怖症候群」が広がっているそうです。卒業までに入学者の23%を脱落させ、(自動的に除籍し)留年も認めないという「卒業定員制」が導入された為、「落ちこぼれ」になるまいと休みの日でも図書館は超満員だそうです。これに比べると、日本の大学生は大変恵まれています。(これが為に大学生の質の低下が叫ばれていますが)

皆さんはこの恵まれた環境のもと、大いに図書館を利用して充実した学生生活を送って下さい。

マタイの福音書にもあるように、大学では、「すべて求める者は得、捜す者は見出し、門をたたく者は開けてもらえる」のですから。



新入生のみなさん、まずは御入学おめでとうございます。新しい門出であるこの時、みなさんの心は新たな意欲でいっぱいになっていることでしょう。さて、ここでみなさんに、図書館の利用をおすすめしたいと思います。

恥ずかしい話ですが、私は3年になって初めて、図書館の2階に上がりました。1年始めのオリエンテーリングで、図書館利用法の説明を受けたのによく理解できず、行ってみようと思いつつも、手続きのわずらわしそうな雰囲気につい敬遠し、2年間をすごしてしまったのです。3年の時、やむにやまれぬ必要に迫られて初めて入ったのですが、入ってみると何ということもありませんでした。

図書館に入ったら、1F奥にあるコインロッカーに学生証と筆記具等を除く荷物をすべて入れ、鍵をかけ(この時百円玉が必要ですが、開けると戻ります)2Fに上がります。入ってすぐのカウンターで鍵の番号を告げて学生証を渡し、ピンクの紙を1枚もらいう——文章にするとやはりややこしい感じになりますが、実際にやってみると全く大したことではありません。私もこんなことならもっと早く来るんだった、としきりに後悔したものです。

億劫がって図書館を利用できるチャンスを逸するのは馬鹿げたこと、まず入ってみる事です。西南の学生となり、あれだけの蔵書を自由に使える身で利用しないという手はありません。新入生のみなさんには、早い時期にとにかく一度行ってみることをおすすめします。

図書館は、前期後期の試験中、レポート締切前には、大いに役立ってくれます。周囲が黙々と勉強していれば、おのずと真剣さが増し能率も上がるというものです。しかし必要な時だけでなく、暇を見つけて立ち寄り、自分が関心を持っていることがらについての本を物色するのもよいでしょう。新聞や雑誌を読みに来ることもできます。

みなさんひとりひとりが、図書館の利用を大いにひろげていただきたいと思います。

レファレンス事例 (11)

参 考 係

最近利用者から寄せられた参考質問のうちから、2・3の事例を紹介して、他の利用者の参考に供したい。

〔質問1〕 古典籍の総合目録を作成するため、それらを収載した目録をできる限り網羅的に収集しようと思うが、これらの目録を記載した資料が何かあるだろうか。

回答例： 各種の書誌・索引・抄録等の2次資料のみを被収録資料としたものに、書誌の書誌と呼ばれるものがある。わが国においては、「本邦書誌ノ書誌」天野敬太郎(編)(間宮書店、昭8)があるが、昭和7年までに刊行されたものしか収録されていないので、その後のものについて、これの増補新版の刊行が望まれていました。ようやく、「日本書誌の書誌」天野敬太郎(編)(巖南堂)の書名のもと、第1巻：総載編(一般書誌)(昭48)第2巻：主題編Ⅰ(昭56)が刊行された。全5巻の予定で今後続刊が予定されている。いわば「本邦書誌の書誌」の2版にあたるものであり、単行本形態の書誌の書誌としては、わが国では唯一のものである。これによって、古典籍が収録されている目録を探し出してゆく。本学のものとしては、「波多野培根先生記念文庫目録」(西南学院大学図書館(編)刊、昭34)が収載されている。

〔質問2〕 本居宣長の「詞の玉緒」が何か収載されているのではないだろうか。

回答例： 「群書類従」、「史籍集覧」などのように、古典を数種以上類従または収載したものの索引として、「増訂・日本業書索引」広瀬敏(編)(風間書房、昭32)がある。これによって書名より引くと、「本居宣長全集」に収載されていることがわかる。

〔質問3〕 「山里はつもれる雪のいつしかと消えぬやがて春のはつ花」と詠んだ人を知りたい。

回答例： 古歌の集成したものとしてよく知られているものに、「国歌大観」全2巻(角川書店、昭26)「続国歌大観」全2巻(角川書店、昭33)がある。それぞれ一句よりその出典を調べる索引がついているので、それを見て本編にあたるようにする。これで調査すると、「新拾遺和歌集」の第一巻：春歌上の巻に収載されているもので、詠人は源俊頼朝臣とある。

なお、最近「新編国歌大観」全5巻予定(角川書店)が刊行開始され、1巻：歌集・索引の2冊が既に刊行(昭58・2)された。これは「国歌大観」(正・続)に含まれているものは全て収載し、その他収載もれものを収めて、(正・続)の3倍以上の作品をふくんでいる。

〔質問4〕 昨年の9月18日の日本の新聞に、フランスのオーピエ書店から出版された、ジャン・サンドランの「捨て子、少年労働者」という図書の紹介記事が出ていたが、その原著、原題等を知りたい。

回答例： フランスの新刊速報誌を見ればよいのだが、本館で購入しているものに、出版案内ではないが、選択書誌と呼ばれる、「Bulletin Critique du Livre Français」月刊(Paris, Association pour la Diffusion de la Pensée Française)がある。これの昨年のもを見ると、439(Juillet 1982)に出ている。

Sandrin, Jean: Enfants trouvés, enfants ouvriers 17^e—19^e siècle (Aubier - Montaigne, 1982)

とある。この選択書誌には、それぞれ短い書評がついている。

〔質問5〕 幕末の天誅組参加者であった玉置重成の伝記を調べたいのだが、種々の人名辞典を見ても載っていなかった。何か載っているものはないだろうか。

回答例： 有名人であればどの人名辞典にも載っているが、そうでない場合は、一般の人名辞典にはどれも載っていない、ということがよくある。そういう場合、どの辞典を見ればその人物の伝記が載っているか、という時に使用するのが「人物レファレンス事典」全5巻(日外アソシエーツ、昭58)である。これを見ると収載されている辞典がすべて載っていて、どの辞典が詳しいか記述量の大きな字数まで出ている。ある特定の人物を調べるのに、あれこれ人名辞典を調べても載っていなかった、というような時間的なロスが省け、記載されている辞典に直行できる。

なお、玉置重成は「明治維新人名辞典」(吉川弘文館、昭56)に載っている。



外国図書館シリーズ

—— アメリカ ——

サン・ディエゴ州立大学

San Diego State University / Malcom A. Love Library
5300 Campanile Dr,
California 92182

Stephen E. Duke

The Malcom A. Love Library is centrally located on the San Diego State University Campus, making it easily accessible to students and Faculty members. Love library, with its open stacks, adjoining study areas, and many individual carrells, has been designed to facilitate study, research and reading. It has some three thousand reader stations and will ultimately accomodate over a million volumes.

The collection is made up of 727,750 volumes including books and bound periodicals and 10,520 linear feet of government documents. Additional resources include 1.4 million microfiche and micro opaque cards, 41,000 reels of microfilm, 7,000 college catalogs, 29,000 scientific reports, 3,700 phonograph records, 1,200 linear feet of curriculum materials and 1,500 feet of archival papers. The library receives 11,000 periodical and serial titles, excluding government documents. It is a depository for United States and California government publications. It receives all United Nations and Organization of American States publications, as well as many publications of other national and international bodies.

The library provides general reference service and specialized service in business and the social sciences as well as separate reference service for sciences and engineering, government publications, and media and curriculum resources. Reference librarians assist students and faculty in their research and study, and librarians with advanced degrees in many subject areas are available for reference consultation. Computerized information retrieval service is also available.

Among the conveniences provided to library patrons are: a locational information desk in the main lobby; current periodicals reading room, and microforms and newspaper center; inexpensive photocopying machines, including several for microfiche and microfilm; ditto machine and typing rooms with coin-operated electric and manual typewriters; coin-operated electronic calculators; listening equipment for cassettes, discs and open-reel tape; and a special facility for the visually handicaped. With these many conveniences and its vast volumes of literature the Malcom A. Love Library is able to adequately meet the needs of its students and Faculty.

(サン・ディエゴ州立大学からの留学生で本年5月まで在籍)

資料紹介

さあ、わたしたちのこどもらに生きようではないか！

■ 記録映画 『フレーベルの生涯と思想』

(イーストマンカラー 16mm 上映時間 1時間50分)

企画・製作 日本記録映画製作所／協賛 東ドイツ パノラマ通信社／協力 在日東ドイツ共和国大使館その他

文学部児童教育学科 教授 中 川 の ぶ

今回大学の配慮によって、記録映画『フレーベルの生涯と思想』のフィルムが購入出来たことは、非常にうれしく感謝しているものである。

フリードリヒ・フレーベルは幼児教育の父であり1836年に画期的な論文を発表した後、世界最初の幼稚園—キンダーガルテン Kindergarten (幼児の園)—を創設し幼児教育の実践にとりくんだのである。フレーベルがどんな世界観、人世観、児童観をもって幼児教育にとりくんだかについて、我国におけるフレーベル研究の第一人者である荘司雅子博士(広島大名誉教授)の講義にもとづいてこの映画は製作されている。

フィルムは、東ドイツのフレーベル生誕の地の、雄大な心安らぐ美しい自然の風景に始まり、次々とゆかりの地が紹介される。又東ドイツ各地に於ける長期現地取材

による多くの遺跡、数多い貴重な資料などを背景に荘司博士の講義が進められ、フレーベルの教育思想の真髄にふれ、深い感銘を覚える。フィルムは3巻に分かれ、第1巻はフレーベルの生誕から、志をたててフランクフルト・アム・マインへ旅立つまで、第2巻はグルーナとの出会いから論文「1836年は生命の革新を要求する」を発表するまで、第3巻は幼児教育をはじめたブランケンブルクから世を去るまで、となっている。

教育問題が論議をよんでいる今日、この映画を通し、フレーベルの教育思想にふれ、幼児教育の指針とその内容、方法について学ぶことは意義深いことである。幼児教育にかかわっている者はもとより、本学の学生、又卒業して現場にある保育者にも是非このフィルムを活用してもらいたいと願うものである。(小児栄養学)

■ Vierteljahrshefte zur Statistik des Deutschen Reichs, Jg. 1~52 (1892~1943)

ドイツ帝国統計四季報

商学部助教授 大 矢 繁 夫

独占段階のドイツ経済に関する研究は、我が国では比較的盛んに行われてきた。最近ではとくに、両大戦間期の1920・30年代を対象としたものが目立っている。この時期を対象にした研究は、そのほとんどが、現代的関心に強く支えられている、といってよい。国家独占資本主義と呼ばれる現代資本主義の蓄積構造は、第2次大戦後に定着してくるが、その端初的展開はすでに両大戦間期にみられるのであり、とりわけ金融市場などをみると、ドイツ経済はこの点できわめて顕著だったからである。1920・30年代のドイツ経済の分析は、大枠でいえば、現代資本主義の蓄積構造の形成過程を明らかにする、という意義をもつであろう。

他面で、この時期のドイツ経済の分析には、もう一つの視角がある。それは、70年代後半以降、長期的不況の様相を濃くしている現代の資本主義経済を、一つの転換期にあるものと認識したうえで、同じく大きな転換点であった1920・30年代のドイツ経済を取りあげ、それがどのような条件のもとで、いかにして危機的な局面を打開していったのかを明らかにしようとするものである。そ

れは、80年代の資本主義経済の展開を探るうえで、きわめて有益である、というのである。これは、より今日的な視角といえる。いずれにせよ、1920・30年代のドイツ経済の分析は、現代との関わりで興味深いテーマとなっていることは確かである。

ところで、ドイツ経済を分析する場合、一般によく利用されているのは統計年報(Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich)である。この度図書館で購入されることになった統計四季報は、上記の統計年報よりもいっそう詳細なもので、官庁統計としては、ドイツ統計集(Statistik des Deutschen Reichs)とならんでもっとも綿密なものである。それは、ドイツ経済のほとんど全域を網羅し、精緻な統計と要点の解説からなっている。景気循環を追う場合などより利用し易いのは確かだし、また、従来は看過されていた事実も見出されるかも知れない。この資料が多くの人によって利用され、研究がいっそう豊富化されることを願っている。

(証券論)

UNITED NATIONS  NATIONS UNIES

国連寄託図書館だより — その③ —

EC 資料の検索方法とOECD 協力資料館

(1) EC 資料の検索方法

Q. 資料検索の際に便利なツールはありますか？

「月刊EC公式資料」(月刊) — 駐日EC委員会代表部の発行で、EC資料を前号で紹介した17カテゴリーの主題別にまとめてあり、新刊資料検索に最良の速報誌である。またEC委員会発行の「Publications of the European Communities」(月刊)も新刊資料を知る上で一つのツールと言える。

EC各機構の活動内容及び討議内容を迅速に知る資料として前号紹介した「Official Journal of the European Communities」の検索ツールに「Index to the Official Journal of the European Communities」がある。このIndexは、Alphabetical Index (Vol. I) と Methodological Table (Vol. II) から成り立っている。

(2) OECD 協力資料館

Q. OECD 協力資料館とは何ですか？

1969年に寄託図書館として認可されましたが、1975年より寄託制度は廃止となった。本学はこれに伴い、OECDが発行する全出版物(単行本、逐次刊行物、非売報告書類)を1975年より継続購入する事になり、OECD協力資料館となった。

Q. 資料の配列はどのようになっているのですか？

(以下のカテゴリー順に配列してある。)

00	一般	74	交通、運輸
10	経済問題	78	
20	財政、金融、租税、貿易	80	労働力、社会問題
30	統計	91	
40	開発	95	教育
50	農業、水産	96	
60	エネルギー問題	92	科学、技術
70	産業政策、地域政策	93	情報処理
		97	環境、公害

Q. OECD の定期刊行物にはどんなものがあるので
すか？

1. The OECD Observer (年6回刊) — OECDの活動分野から、その時点のトピックスをダイジェストとして速報。
2. Economic Outlook (年2回刊) — 世界の経済情勢の見通しを行う権威と信頼に満ちた資料。
3. Economic Surveys (年22~23ヶ国分冊) — OECD諸国の各年度別経済審査報告書。
4. Main Economic Indicators (月刊) — OECD諸国の主要経済指標。
5. Financial Statistics (月刊) Part 2・3 + Supplement (年5回刊) — 世界の金融市場の動きを掲載。
6. Nuclear Law Bulletin (年2回刊) — 世界各国の原子力関係法行政案内。
7. Quarterly Oil Statistics (年4回刊) — IEAが発表する最新で正確な石油の動き。
8. Labour Force Statistics (年4回刊) — 統計で示す各国の労働力・雇用・失業問題。
9. Statistics of Foreign Trade
世界貿易市場の動向調査に必要な統計
Ser. A: Monthly Bulletin (月刊)
Ser. B: Annual Tables by Reporting Countries (年5回刊)
Ser. C: Annual Tables by Commodities
imports (年1回刊)
exports (年1回刊)
10. Quarterly National Accounts (年4回刊) — OECD諸国の国民経済計算を掲載。
11. Indicators of Industrial Activity (年5回刊)
OECD諸国の工業生産活動指数。

12. Guide to Legislation on Restrictive Business Practices (不定期) —OECD 諸国のカルテル・独禁法全書。

13. Research on Transport Economics (年2回刊) ヨーロッパ運輸担当大臣会議 (ECMT) 運輸 経済研究。

14. Pulp and Paper Statistics (年4回刊) —紙・パルプの世界市場動向。

15. Financial Market Trends (年3回刊) —国際金融市場と主要国国内市場の最近の動向を分析。

Q. OECD 資料の検索ツールを教えてください。

OECD 東京広報センター発行の「OECD 新刊案内」(年6回刊)は、簡単な説明を交えての新刊の紹介をしており、OECD 出版物を把握するのに適している。また「総合出版物目録」(年刊)も主題別に出版物を分類しており、検索の際便利である

(本館司書・国連係 小島 哲)

☆ ニュース・お知らせ ☆

〈研修・出張〉

- 第2回ジャパンマーク利用者懇談会
58.2.18 於：日本図書館協会
今永課長補佐出席

〈人事〉

任用 司書補 田淵智子 (庶務・受入係) (58.4.1付)

〈卒業論文の保管について〉

卒業論文(大学院修了論文を含む)は、製本のうえ図書館で保管してきましたが、保管スペースが狭あいとなってきた等のため、58年3月卒業生の分からは図書館では保管しなくなりました。

しかし、大学院の修了論文については、今後も引き続き図書館で保管します。

〈本学所蔵学術雑誌目録の刊行予定〉

本学所蔵(神学部分館を含む)の雑誌目録は、1979年版が最新版で、その後新規、バックナンバーの購入等で所蔵状況がかなり変わってきているため、その改訂版の刊行が望まれていましたが、このたびようやく準備も終え刊行のめどがつけました。印刷の関係で冊子体目録としての刊行は、5月下旬になる予定です。

告知板

昭和58年度 図書館行事予定表

58年

2月5日(土)～4月9日(土) 春季休暇
休暇中学習室閉室
2月8、9、10、12日は入学試験のため休館
4月6日(水) 新入学生利用指導(文・法)
7日(木) 〃 〃 (商・経)
5月11日(水) 学院創立記念日で休館
7月1日(金) 夏期長期貸出開始(9月18日まで)
11日(月)～9月3日(土) 夏期休暇
休暇中学習室閉室
9月8日(木)～9月28日(水) 前期試験
29日(木) 30日(金) 大学休業のため休館
11月中旬 大学祭期間中学習室閉室
12月15日(木) 冬休長期貸出開始(1月18日まで)
26日(月)～1月7日(土) 冬季休暇
休暇中学習室閉室
26日(月) 開館9:00～21:00
27日(火) 開館9:00～12:00
28日(水)～1月5日(木) 年末年始の休館

59年

1月19日(木)～2月3日(金) 後期試験
24日(火) 春休長期貸出開始
(卒業予定者は2月末日まで)
(上記以外者は4月22日まで)
2月4日(土)～4月9日(土) 春季休暇
休暇中学習室閉室
中旬 入学試験のため休館
3月上旬 在庫調査で開架閲覧室閉室

休館・閉館その他行事予定については、
そのつど、図書館の玄関に掲示します。